



ビジネスセミナー

「地域資源を活用したヘルスケアビジネスの取組」

開催日時：10月24日(水) 13:00～14:15

主催者：新潟県、(公財)にいがた産業創造機構

概要

1. 青森発機能性素材プロテオグリカンを活用した産業の創出 (青森県商工労働部新産業創造課 ライフイノベーション推進グループ 主幹 秋元 剛氏)

プロテオグリカンは高い保水・保湿作用や軟骨再生促進作用を持ち、化粧品やロコモケア健康食品への展開のほか、アンチエイジングの用途も期待される市場性の高い有望な素材である。新陳代謝の促進や抗炎症作用による潰瘍性大腸炎の症状緩和なども確認されており、将来的には医療用途も期待できる。



プロテオグリカンは30～40年前から研究者の間で知られていたが、抽出方法がわからず量産化される前は1g当たり3,000万円と高価で、研究試料でも使用が難しかった。

こうした中、弘前大学医学部が、青森の郷土料理「水頭なます」からヒントを得て、酢酸とアルコールでプロテオグリカンが鮭から抽出する方法を発見し、地元の(株)角弘と共同研究して、高純度で大量に精製する技術を確認し、特許を取得した。この技術により研究が飛躍的に進展し、抗炎症、細胞増殖促進、軟骨再生促進、骨代謝異常改善、保湿の五つの作用が解明された。

弘前大学はプロテオグリカンの量産化技術を(株)角弘に技術移転し、そこに天然素材の研究開発企業である岐阜県の一丸ファルコス(株)がパートナーとして加わり、プロテオグリカンを市場に提供できる体制を作った。2004年からは国の競争的資金を活用しながら産学官連携により事業化を進めた。青森県は「青森ライフイノベーション戦略」の中でプロテオグリカン産業を柱の一つとして重点的に支援し、(一社)あおりPG推進協議会では「あおりPGブランド認証制度」を作り、2018年3月末現在で160商品を認証している。

プロテオグリカン市場は順調に伸びており、2021年には480億円になると推計されている。(一社)あおりPG推進協議会会員企業の2010年からの累計製造品出荷額は180億円、商品数は281商品に及ぶ。県内ではプロテオグリカンの美容健康産業が根付きつつあり、素材製造、化粧品・健康食品の販売、エステサロン等へと展開されてきている。米国、中国など9か国で「あおりPG」の商標登録を行うなど海外進出にも取り組んでおり、一丸ファルコス(株)が出席した米国の「ナショナルプロダクツ・エキスポ・ウエスト2017」では「NEXTY AWARD」の「最優秀新原料賞」を受賞した。今年からは「あおりPG産業振興推進ネットワーク」を組織し、研究・販売・知財戦略などを地域で廻す体制の整備に取り組んでいる。

「あおりPG」の取組は何もないところから産業発展まで、非常にスピード感をもって進めてきたことにより、一定の成功を収めたのではないかと評価している。

2. 故郷の素材を宝に! (株)ラビプレ 代表取締役 三浦 和英氏)

化粧品業界では、原料が化学物質から天然素材にシフトチェンジしている。青森県には海、山、湖・湾といった豊富な地理的環境があるので、そこから生み出される農水産物を化粧品や健康食品にして全国に発信していくベンチャー企業を起業した。最初はりんごジュースの絞りカスから抽出したエキスを活用した化粧品を土産物屋に置いて販売したが全く売れなかった。化粧品は単に棚に並べて売れるものではなく、製品の良さを実感している美容スタッフがお客様に良さを伝える「One to oneマーケティング」が重要であることがわかった。



その後、20年に一度の素材と言われるプロテオグリカンと出会い、優秀さにほれ込んで保湿クリームを試作し展示会に出展したところ、手のひび割れに苦しんでいる年配女性から「このクリームを使ったらすごく良いので、すぐに売って欲しい」と言われた。試供品を差し上げることでできなかったが、プロテオグリカンの効果に自信を持ち、きちんと商品化してみようと思った。

プロテオグリカンとりんごのエキスを加えたクリームを商品化し、弘前さくらまつりで販売した。クリームを片手だけに塗る体験を行ったところ、もう一方の手にも塗って欲しいと再来訪される方が続出し、期間中だけで約100個のクリームを販売した。その後もねぶた祭りや手湯のイベントなどを通してファンが増えていき、化粧水や石鹸など基礎化粧品ラインが揃った。

ブランド力を高められる化粧品素材は他にもないかと考え、漢方の王様である甘草の栽培に取り組んだ。甘草は日本の気候では開花結実しにくいのが、弘前大学の研究資金を活用して培養によるやり方で種が取れるようになったので大量生産に踏み切り、りんご、プロテオグリカン、甘草由来成分を配合した化粧品を商品化した。世界へ発信していくイメージで世界遺産である白神山の青池の写真をパッケージに活用し、2018年度のジャパンメイド・ビューティーアワード等を受賞した。

商品開発の極意は、安定的に入手できるオリジナルの原料にこだわる事、良い素材に出会う事、OEMメーカーの能力を見極める事である。「千里一步」をモットーに、今後も挑戦を続けていきたい。